

Noetraに関する動向調査レポート

エグゼクティブサマリー

- Noetraは、旧社名「日本AI基盤モデル開発」から改称した新会社で、2026年7月1日に事業開始した。2026年6月30日時点で公式に確認できる出資企業は、ソニーグループ、ソフトバンク、NEC、日本電気、本田技研工業の4社であり、Noetra自身は今後さらに国産AI開発企業や製造業など幅広い業種から出資を受ける予定としている。ただし、出資比率、出資金額、普通株・優先株などの出資形態、完全な役員構成は未公表である。¹
- Noetraの中核ミッションは、AIロボットやフィジカルAIの基盤となる国産マルチモーダル基盤モデルの開発である。公式資料では、高度な日本語理解、論理推論、指示遂行に加え、画像・動画・音声・物理特性など実空間情報を統合的に扱う能力の開発、さらに“実世界ネイティブ”なフィジカルAIに向けた拡張性・評価技術の開発が掲げられている。一方で、モデルのパラメータ規模、具体的な学習手法、使用GPU、推論基盤の詳細は現時点で未公表である。²
- 産総研の役割は明確で、Noetraがモデルの開発・提供を担い、産総研が理論・アーキテクチャ・先端研究で支える構図である。経産省の会見では、産総研が米国、カナダ、フランス、英国など海外研究機関とも連携して研究開発に貢献すると説明されている。NEDOの標準的な知財・データ管理ルールから見ると、プロジェクト開始時点で知財合意書・データ合意書・データマネジメントプランを整備し、知財運営委員会を通じて権利化・秘匿・公表・第三者開示を管理する運用になる可能性が高い。³
- 既存の技術資産としては、Noetra自身はまだ若く、公開特許・商標・補助金実績はGビズINFO上で0件だが、周辺には強い先行資産がある。産総研にはロボット基盤モデル研究、AIRoAコンペ優勝実績、マルチモーダルAI品質マネジメント指針があり、SB IntuitionsにはSarashina系公開モデル、NECにはcotomiがある。したがって、Noetraはゼロからの単独開発主体というより、既存の国産研究資産を束ねて産業実装へ持っていく統合ハブとして見る方が実態に近い。これは公開情報からの分析である。⁴
- 競争相手は国内よりも、むしろ海外のフィジカルAI／世界基盤モデル勢である。国内ではPFNのPLaMo-VL、SB IntuitionsのSarashina、NECのcotomiに近いが、Noetraが目指す「産業現場データを安全に扱える国産のフィジカルAI基盤」は、Google DeepMindのGemini Robotics、NVIDIA Cosmos、Physical Intelligenceのπシリーズにより近い。差別化軸は、日本語性能そのものより、産業現場データ、データ主権、国内エコシステム形成、重み公開による裾野拡大にある。⁵
- 最大の不確定要素は、資本政策と事業化設計の不透明さである。2026年度予算として約3,873億円が計上されたとロイターは報じているが、これはNoetraの自己資本ではなく、NEDO事業側の公的予算である。Noetraの資本金、追加ラウンド、株主比率、将来の調達計画、収益モデルは未公表であり、当面はB2B向けのモデル提供、共同開発、領域特化モデル支援、ソブリンククラウド／オンプレ連携が主軸になる公算が大きい。ここは一部が分析上の推定である。⁶

論点別の結論表

調査項目	短い結論	根拠
出資企業一覧と出資比率・出資形態	公式に確認できる出資企業は4社。 比率・金額・証券種別は未公表。将来の追加出資は予定されている。	Noetra公式PRはソニー、ソフトバンク、NEC、本田技研工業を明記し、追加出資を予定と説明。比率等は確認できない。 ⁷
共同出資構造・ガバナンス・取締役	会社としてのNoetraと、NEDO採択案件のNoetra+産総研コンソーシアムが二層構造。 公開確認できる役員は代表取締役社長のみ。	Noetraが事業主体、産総研が研究協力主体としてNEDO採択。公式サイト上の公開役員情報は丹波廣寅氏のみ。 ⁸
ミッションと技術ロードマップ	国産マルチモーダル基盤モデル→実世界ネイティブなフィジカルAI基盤が中核。 重み公開で国内エコシステム形成を狙う。	Noetra公式PRとITmedia 2026-06-30で、基盤能力、日本語理解、世界基盤モデル志向、重み公開方針が示されている。 ⁹
マルチモーダルAIの定義と目標	公式定義は 音声・画像・動画・センサーデータ等を扱えるAI 。Noetraはさらに物理特性や実空間理解まで視野に入れる。	経産省が定義を明示し、Noetraは画像・動画・音声・物理特性を統合すると説明。 ¹⁰
産総研の関与	産総研は 理論・アーキテクチャ・先端研究 を担う。海外研究機関連携も想定。	ITmedia、経産相会見、産総研公式発表が一致している。 ¹¹
既存技術・研究	Noetra自体の公開特許・商標は現時点で0件だが、 産総研・SB Intuitions・NEC・PFN に強い先行資産がある。	GビズINFO、産総研研究ページ、SB Intuitions研究ページ、NEC cotomi資料、PFN資料。 ¹²
競合・類似プロジェクト	国内比較ではPFN・SB Intuitions・NEC、国際比較ではGoogle DeepMind・NVIDIA・Physical Intelligenceが主要。	各社公式モデルページ・プレス資料による。 ¹³
規制・倫理・プライバシー	最大論点は 個人情報、著作権、産業データ秘匿、安全性評価、エネルギー効率 。	PPC、文化庁、METI AI事業者ガイドライン、Noetraのプライバシー／セキュリティ方針、産総研ガイドライン。 ¹⁴
商業化戦略・収益モデル	公式の収益モデルは未公表。 ただし、重み公開、企業向け提供、社会実装、海外展開の記述から、B2B中心のライセンス／共同開発型とみるのが妥当。	Noetra公式PRと経産相会見に基づく分析。推定を含む。 ¹⁵
人材採用・組織・資金調達	代表者は丹波廣寅氏。 資本金・従業員数・追加調達計画は未公表。 政府事業側には大型予算が付く。	Noetra会社概要、GビズINFO、ライター。 ¹⁶
今後のタイムラインとKPI	事業期間は 2026年6月～2031年3月 。短期は基盤能力、中期はマルチモーダル統合、長期はフィジカルAI適用と国内エコシステム形成が焦点。	Noetra・産総研PR、METI資料。 ¹⁷

出資構造とガバナンスの実像

確定情報と未確定情報を分けて見る必要がある

2026年7月1日時点で、**公式に確認できる出資企業は4社**です。Noetraの2026年6月30日プレスリリースは、ソニーグループ、ソフトバンク、NEC、本田技研工業の4社を名指ししつつ、今後さらに「国産AIの開発に取り組む企業」や「製造業をはじめとするAI活用を推進する幅広い業種の企業」から出資を受ける予定だとしています。つまり、現時点の公開情報では**4社が少なくとも確定株主候補であり、それ以外の参加企業は“予定”段階**です。¹⁸

一方、2026年4月時点のITmedia報道は、日本経済新聞などの報道を引用する形で、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、日本製鉄、神戸製鋼所も出資すると伝えていました。ただし、この5社については、**2026年6月30日のNoetra公式発表・経産省発表・産総研発表では再確認できません**。したがって、2026年7月1日時点のレポートとしては、これらを「**報道ベースで名前が挙がった追加候補**」として扱うのが妥当です。¹⁹

出資企業一覧

区分	企業名	2026-07-01時点の確定レベル	コメント
公式確認	ソニーグループ	高	Noetra公式PRに明記。 ¹⁸
公式確認	ソフトバンク	高	Noetra公式PRに明記。プライバシーポリシー上の共同利用先でも唯一明記される。 ²⁰
公式確認	NEC	高	Noetra公式PRに明記。 ¹⁸
公式確認	本田技研工業	高	Noetra公式PRに明記。 ¹⁸
報道ベース	三菱UFJ銀行	中	2026年4月ITmedia報道で言及。2026年6月30日時点の公式再確認なし。 ²¹
報道ベース	三井住友銀行	中	同上。 ²¹
報道ベース	みずほ銀行	中	同上。 ²¹
報道ベース	日本製鉄	中	同上。 ²¹
報道ベース	神戸製鋼所	中	同上。 ²¹

出資比率・出資形態・役員構成の開示状況

ここは公開情報がかなり限られます。GビズINFO上でも、Noetraの**資本金、代表者名以外の役員構成、従業員数、企業規模詳細は空欄**です。Noetra公式サイトの会社概要にも、代表取締役社長 丹波廣寅氏の記載はありますが、**他の取締役、監査役、社外取締役、委員会設計、議決権比率、持株比率は掲載されていません**。

したがって、ユーザーが特に知りたいであろう出資比率・種類株の有無・株主間契約の内容・ボード構成は、2026年7月1日時点では未公表です。²²

共同出資の構造は二層で理解するとわかりやすい

構造としては、第一層にNoetra株式会社という事業会社があり、ここに複数企業が資本参加する。第二層に、NEDO採択案件の実施体制としての「Noetra+産総研」コンソーシアムがあります。後者は株主関係ではなく、研究開発委託事業の遂行体制です。Noetraが基盤モデルの開発・提供を担い、産総研が理論・アーキテクチャ・先端研究を担当するという役割分担は、ITmedia、経産省、産総研の説明が概ね一致しています。²³

資金面で見えること

Noetraの自己資本額は未公表です。ただし、ロイターは、経産省が採択したこのNEDOプロジェクトについて、2031年までの5年間プロジェクトで、2026年度に3,873億円の予算を計上したと報じています。これはNoetraの資本金ではなく、政府側の事業予算です。したがって、「株主からのエクイティ」と「国の委託・支援予算」は厳密に分けて見る必要があります。²⁴

技術ロードマップと産総研の役割

Noetraの技術目標は、汎用マルチモーダルからフィジカルAIへ伸びる

Noetraの公式説明を要約すると、技術目標は次の順序で整理できます。まず、高度な日本語理解、論理推論、指示遂行といった基盤能力を高める。次に、画像・動画・音声・物理特性を含む実空間情報を統合して扱えるマルチモーダル能力を作る。最後に、“実世界ネイティブ”なフィジカルAIに向けて、モデルの拡張性、応用可能性、評価技術を整える。これがNoetraの公式ロードマップの骨格です。²⁵

また、経産省は「マルチモーダル基盤モデル」を、言語にとどまらず音声・画像・動画・センサーデータ等、多様なデータを扱えるAIと定義しています。Noetraの記述はこの定義よりさらに踏み込み、物理特性や実空間理解を取り込みたいという野心を示しています。¹⁰

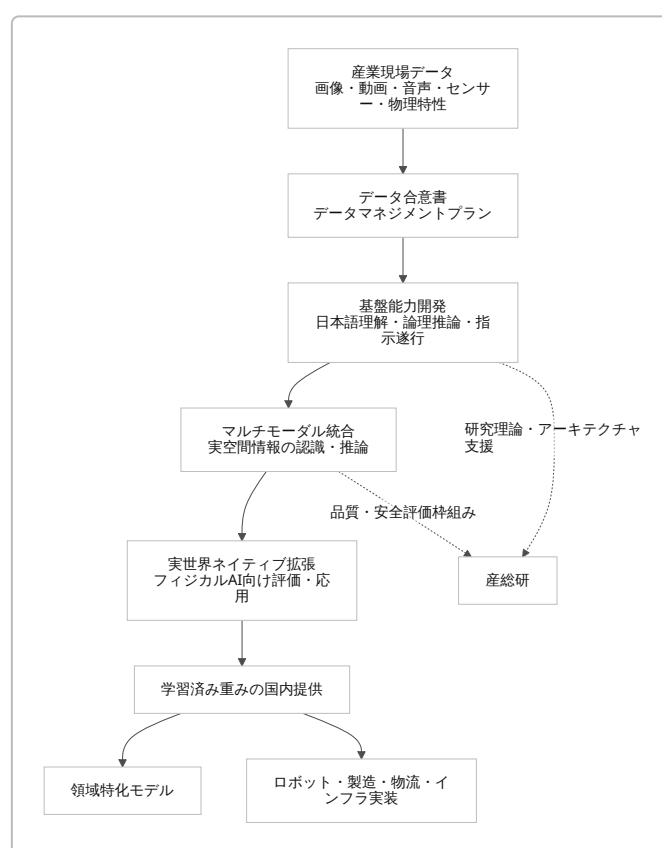
公式に開示された技術項目と、まだ開示されていない項目

技術論点	2026-07-01時点の確認内容	評価
モデルの目的	AIロボット・フィジカルAIの基盤となる国産マルチモーダル基盤モデル。 ²⁶	明確
対応モダリティ	日本語、画像、動画、音声、物理特性、実空間情報。経産省定義にはセンサーデータも含む。 ¹⁰	明確
基盤能力	日本語理解、論理推論、指示遂行。 ²⁷	明確
フィジカルAI拡張	実世界ネイティブな拡張性、応用可能性、評価手法の研究。 ²⁸	明確
モデル規模	未公表。4月報道では1兆パラメータ規模と報じられたが、6月30日時点の公式資料では再確認できない。 ²⁹	不確定
データ方針	産業現場の重要データを「安心して活用できる」ことを重視。NEDOルール上はデータ合意書・DMP作成が前提。 ³⁰	部分的に明確

技術論点	2026-07-01時点の確認内容	評価
学習手法	未公表。ただしAIST側には模倣学習・ロボット基盤モデル研究の蓄積あり。 ³¹	不確定
推論環境	未公表。Noetra事業内容には「モデル開発で使用するインフラの検討」とのみ記載。 ¹⁸	不確定
公開方針	研究成果のうち学習済みの重みを国内のモデル開発者・利活用事業者に広く提供。 ²⁶	明確

技術ロードマップの模式図

Noetraの公開資料とNEDOのデータ・知財運用ルールを踏まえると、現時点で想定できる開発フローは次のようになります。図中の細部は分析上の整理ですが、矢印の大枠は公式発表に対応しています。³²



産総研の関与は「共同研究」より一段深い

産総研は単なるアドバイザーではありません。ITmedia 2026-06-30記事では、**NoetraがAIモデルの開発と提供を担い、産総研が理論やアーキテクチャに関する研究を担う**と整理されています。経産相会見ではさらに、産総研が**米国、カナダ、フランス、英国などの海外研究機関とも連携体制を構築して先端技術を取り込む旨**が明言されています。³³

また、産総研にはNoetra以前から関連蓄積があります。AIST-CNRSロボット工学連携研究ラボは、**言語・画像・音響・三次元点群等の多様なモダリティを統合したロボット基盤モデル**を目指し、模倣学習ベースで難度の高いマニピュレーションを研究してきました。AIRoAコンペでも、産総研・ソフトバンク・三菱電機の合同チームが、数万時間規模のロボット動作データセットを用いたロボット基盤モデル構築で優勝していま

す。つまり、Noetraプロジェクトは突然現れたものではなく、産総研のEmbodied AI／Robot Foundation Model系研究の延長線上にあります。³⁴

既存技術・研究資産の棚卸し

Noetra単独の公開資産はまだ少ない

GBizINFOでは、Noetraの法人番号に紐づく情報として、特許0件、意匠0件、商標0件、補助金交付0件、調達0件が表示されています。これは会社が若いことを考えれば自然ですが、2026年7月1日時点の公開データだけを見ると、Noetra自身はまだ知財ポートフォリオやOSS実績を前面に出していません。³⁵

したがって、「Noetraの既存技術」を見る時は、会社単体ではなく、産総研と出資企業の周辺技術資産を合わせて評価する必要があります。³⁶

関連技術・研究資産の一覧

資産類型	主体	公開情報	Noetraとの関連性
公開特許・商標	Noetra	GBizINFO上では特許・意匠・商標とも0件。 ³⁵	会社としては立ち上がり段階。
ロボット基盤モデル研究	産総研	言語・画像・音響・三次元点群を統合するロボット基盤モデル研究を2024.4～2027.3で実施。 ³¹	フィジカルAIの研究母体として重要。
大規模ロボットデータ評価	産総研＋ソフトバンク等	AIRoAコンペで数万時間規模ロボットデータを使った基盤モデル開発で優勝。 ³⁷	データ品質管理と学習ノウハウの先行資産。
実空間比較AI	産総研	複数物体の形状差・組み合わせを理解し言語記述するAIを発表。 ³⁸	実世界理解・製造現場適用に直結。
品質マネジメント指針	産総研	マルチモーダルAI品質マネジメントガイドライン第1版を公表。 ³⁹	Noetraの評価・安全設計の実務基盤になり得る。
OSS／公開モデル	SB Intuitions	Sarashina2.2-Vision-3B、ModernBERT-Jaなどを公式研究ページから公開。 ⁴⁰	Noetra CEOの前職組織であり、日本語／視覚モデル資産として近い。
公開LLM	NEC	cotomi v3を政府試用対象として提示。日本語性能、軽量高速、安全・安心環境対応を訴求。 ⁴¹	Noetraの企業参加側にある即戦力LLM資産。
自律稼働デバイス向けVLM	PFN	PLaMo-VLを公開。エッジデバイス向けVLMとして展開。 ⁴²	直接の出資公表はないが、国内の近接競合・比較対象。

学術論文・オープンソースの見方

Noetra自身の学術論文は、少なくとも2026年7月1日時点ではまだ出ていません。ただし、Noetraは事業期間内から研究知見や論文をWeb上で展開する方針だとITmediaは報じています。これは、Noetraが閉じた受託会社ではなく、国内エコシステム形成に向けた公開志向を持つことを示します。⁴³

また、SB Intuitionsの研究ページではSarashina系モデルがHugging Face経由で公開されており、少なくともソフトバンク陣営には**オープンモデル運用の経験**があります。Noetraの重み公開方針は、この延長線上にあるとみるのが自然です。これは分析ですが、根拠は明確です。⁴⁴

競争環境と商業化戦略

競争相手は国内LLM企業ではなく、物理世界を扱う基盤モデル企業

Noetraの競争軸を単純に「日本語LLMの出来」に置くと、評価を誤ります。公式資料が繰り返し強調するのは、**AIロボット、フィジカルAI、産業現場データ、実空間情報、物理特性**です。したがって、比較対象は一般向けチャットAIよりも、**世界基盤モデル／ロボティクス基盤モデルのプレイヤー**です。⁴⁵

主要プレイヤー比較

プレイヤー	主戦場	モダリティ	展開形態	Noetraとの比較
Noetra	フィジカルAI向け国産基盤モデル	日本語、画像、動画、音声、実空間情報、物理特性	重み公開+国内企業提供を想定。公式収益モデルは未公表。 ²⁶	データ主権・国内産業現場が強み。
PFN PLaMo-VL	自律稼働デバイス向けVLM	画像+言語中心	公開モデル・モニター提供。 ⁴⁶	エッジ軽量性では先行。Noetraはより広い国家プロジェクト型。
SB Intuitions Sarashina	国産LLM・Visionモデル	日本語中心、一部Vision/TTS	クラウドPF Type Aで提供、公開モデルあり。 ⁴⁷	Noetraの人的・技術的近縁。
NEC cotomi	企業向けLLM / AIエージェント	言語中心	クラウド・オンプレ・ハイブリッド。 ⁴⁸	企業導入実績と軽量高速性が強み。
Google DeepMind Gemini Robotics	ロボティクス基盤モデル	視覚・言語・空間推論・行動	クラウド／デバイス双方。 ⁴⁹	総合性能で先行。Noetraは国内データ環境で対抗。
NVIDIA Cosmos	World foundation models for physical AI	主に映像世界モデル、物理AI向け	オープンモデルライセンスで提供。 ⁵⁰	シミュレーション・合成データ・世界モデルで強い。
Physical Intelligence π	汎用ロボット制御モデル	Vision-Language-Action	研究公開、π0やopenpiの公開。 ⁵¹	汎用ロボット制御の先行スタートアップ。

商業化戦略はまだ「設計段階」だが、方向は読める

公式資料は収益モデルを明記していません。ただし、Noetraは、**研究成果の学習済み重みを国内事業者**に広く提供する、**領域特化モデル開発**を後押しする、**実証評価・社会実装・多言語対応・海外拠点展開**まで見据

えるとしています。この組み合わせから、商業化は少なくとも以下の複線型になる公算が高いです。ここは分析です。 15

第一に、**基盤モデル重みの提供**です。完全無償公開か、条件付き公開か、国内限定配布かは未公表ですが、底辺拡大を重視する姿勢は明白です。第二に、**B2B共同開発**です。製造、物流、インフラといった現場データ保有企業向けの領域特化モデル開発支援は、出資構造とミッションから見て自然です。第三に、**運用基盤や実装支援**です。Noetraの事業内容には「モデル開発で使用するインフラの検討」が明記されており、モデルだけでなく実装環境との一体提供に進む可能性があります。 18

想定市場とユースケース

Noetraと経産省の説明を合わせると、想定市場はかなり明確です。典型例は、**製造、物流、インフラ、医療・ヘルスケア、災害対応、福島第一原発の廃炉現場**など、実世界データがあり、かつ海外汎用モデルをそのまま使いにくい領域です。経産相は2040年に約1,000万台のロボット導入目標を掲げており、Noetraはそのデータ／モデル基盤に位置付けられています。 52

規制・倫理・データプライバシーの論点

リスクは「一般的な生成AIリスク」より広い

Noetraが扱おうとしているのは、単なるテキスト生成ではなく、**産業現場データ、画像・動画・音声・物理特性、将来的にはロボット動作**まで含む多層データです。そのため、一般的な生成AIよりも、**個人情報、営業秘密、著作権、安全性評価、モデル説明責任、サイバーセキュリティ、エネルギー効率**の負荷が重くなります。経産省自身も、AI利用拡大を受けて日本では**省電力化が重要課題**だと明記しています。 53

主なリスクと想定対応

リスク	何が問題か	公開情報から見える対応
個人情報 の混入	プロンプトや学習・評価データに個人情報が混入すると、再出力・不正確出力・目的外利用のリスクがある。	PPCは、個人情報を含むプロンプト入力を利用目的範囲内か確認し、機械学習へ再利用しないこと等を確認すべきと通知。NoetraもAPPI遵守、共同利用契約、安全管理措置を明記。 54
産業データ・営業 秘密	製造・物流・インフラの現場データは競争力の源泉であり、漏えいコストが高い。	Noetraは「安心して活用できる」国産モデルを強調。NEDOデータ方針ではデータ合意書、DMP、第三者開示の事前承認、秘匿理由の記載が求められる。 30
著作権・ 知財	学習データと生成物の権利処理、学習済み重み公開時の第三者権利問題。	文化庁はAIと著作権に関するチェックリスト&ガイダンスを整備。NEDO知財方針では知財合意書と知財運営委員会による公表・秘匿・権利化判断を要求。 55
バイア ス・誤作 動・安全 性	マルチモーダルAIは誤認識が物理的事故に直結しうる。	METI AI事業者ガイドラインは安全性・公平性・透明性・アカウントビリティを共通指針化。産総研はマルチモーダルAI品質マネジメントガイドラインを公開。 56
説明責任 の欠如	現場導入では「なぜその判断をしたか」が必要。	AI事業者ガイドラインは、能力・限界・データ収集手法などの合理的情報提供を求める。 57

リスク	何が問題か	公開情報から見える対応
セキュリティ侵害	モデル重み、学習データ、推論APIへの攻撃。	Noetraは管理体制、内部規程、監査、委託先審査、アクセス制御等を公表。AI事業者ガイドラインも機密性・完全性・可用性の維持を求める。 ⁵⁸
エネルギー負荷	大規模学習・推論は日本の電力制約と相性が悪い。	経産省は省電力化の重要性を明記し、Noetraも環境負荷抑制に資する効率的AI活用研究を掲げる。 ⁵³

Noetraの政策適合性は高いが、実装負荷も高い

Noetraは、政府のAIロボティクス戦略、AI法の「イノベーション促進とリスク対応」の方向、METI AI事業者ガイドライン、PPCの個人情報注意喚起、文化庁の著作権ガイダンスと、全体として整合的です。むしろ問題は、**政策整合性**ではなく、**それを事業運営・評価・契約・データ連携の現場実務に落とし込めるか**にあります。NEDOの知財・データ管理ルールはその雛形になりますが、マルチステークホルダーの大型共同開発である以上、運用コストはかなり高いはずで、これは公開規程からの合理的な推定です。⁵⁹

タイムラインと評価指標

現時点で読めるタイムライン

Noetra・産総研のプレスリリースでは、本プロジェクトの実施期間は**2026年6月～2031年3月**とされています。METIのニュースリリースでは「2026年度～2030年度」と書かれており、これは日本の会計年度表記に対応するもので、実質的には同じ期間を指しています。¹⁷

時期	公式に読めるマイルストーン	レポート上の解釈
2026年6月30日	Noetra+産総研がNEDO採択、公表。 ⁶⁰	研究開発の正式起点。
2026年7月1日	Noetra事業開始。 ¹⁸	会社体制の本格始動。
2026～2030年度	NEDO事業期間。 ⁶¹	基盤開発・検証・重み公開が動く期間。
2026年6月～2031年3月	Noetra・産総研PR上の実施期間。 ⁶²	実務上の終期。
2040年	AIロボティクス戦略のロボット導入目標約1,000万台。 ⁶³	Noetraが中長期で支える需要側KGI。

KPIは「公式KPI」と「分析上のKPI」を分けた方がよい

現時点でNoetraが数値KPIを公表したわけではありません。したがって、成功指標は**公式に読み取れるもの**と、**外部アナリストとして妥当と考えられるもの**を分けるのが適切です。⁶⁴

期間	KPI案	性格
短期	参加企業拡大、知財合意書・データ合意書・DMP整備、研究チーム立ち上げ、初期ベンチマーク公開	前半3つはNEDO運用上ほぼ必須、後半は分析上のKPI。 ⁶⁵

期間	KPI案	性格
短期	日本語理解・論理推論・指示遂行の基盤能力の初期達成	公式目標。 27
中期	画像・動画・音声・実空間情報を統合したモデルの公開、学習済み重みの順次提供、複数産業でのPoC開始	公式方針+分析。 66
中期	産業データ利用時の安全性・説明性・省電力性の評価枠組み確立	公式方針。 67
長期	“実世界ネイティブ”なフィジカルAI適用、国内AIエコシステムの形成、海外展開の成立	公式方針。 15
長期	国内ロボティクス需要への実装寄与、導入台数・導入分野・売上・継続利用率	需要側KPIとして妥当だが、現時点では分析上の提案。 63

重要な一次ソースURL

以下は、本件の理解に特に重要な一次ソース、準一次ソース、指定記事のURLです。公式情報を中心に列挙し、指定のITmedia記事も含めています。 68

<https://www.noetra.co.jp/>
<https://www.noetra.co.jp/pressrelease20260630-1>
<https://www.noetra.co.jp/pressrelease20260630-2>
<https://www.noetra.co.jp/privacy>
<https://www.noetra.co.jp/security>
<https://www.meti.go.jp/press/2026/06/20260630005/20260630005.html>
<https://www.meti.go.jp/speeches/kaiken/2026/20260630001.html>
https://www.nedo.go.jp/koubo/CD3_100431.html
https://www.nedo.go.jp/koubo/CD2_100431.html
https://www.aist.go.jp/aist_j/news/pr20260630.html
<https://unit.aist.go.jp/isri/isri-jrl/jp/projects/project-foundation.html>
https://www.aist.go.jp/aist_j/news/prz20260512
https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2026/pr20260525/pr20260525.html
<https://qai.pj.aist.go.jp/aisafety1/results/2025/3-1-1/pdf/multimodal-aiqm-guidelines-rev1.0.0.pdf>
https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_act/ai_act.html
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/20260331_report.html
https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/230602_AI_utilize_alert/
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>
<https://info.gbiz.go.jp/hojin/ichiran?hojinBango=4010401195731>
<https://www.itmedia.co.jp/aipius/article/2606/30/2000000138/>
<https://www.itmedia.co.jp/aipius/article/2604/13/1260413084/>

不確定情報の明示

本レポートで特に不確定、または報道ベースとして扱った情報は次のとおりです。一兆パラメータ規模、MUFG・三井住友・みずほ・日本製鉄・神戸製鋼所の正式な出資確定、出資比率、資本金、普通株／優先株などの出資形態、完全な役員構成、具体的GPU・学習手法・推論インフラ、収益モデルの詳細です。これら

は、2026年7月1日時点では公式一次資料で確認できないため、本文では明確に未公表または報道ベースとして区別しました。⁶⁹

1 7 15 16 18 20 26 28 32 45 68 Noetra 株式会社 - プレスリリース_0630①
<https://www.noetra.co.jp/pressrelease20260630-1>

2 5 9 17 25 27 30 60 62 64 67 Noetra 株式会社 - プレスリリース_0630②
<https://www.noetra.co.jp/pressrelease20260630-2>

3 52 63 赤澤経済産業大臣の閣議後記者会見の概要 (METI/経済産業省)
<https://www.meti.go.jp/speeches/kaiken/2026/20260630001.html>

4 12 22 35 36 Noetra 株式会社 | 4010401195731 | Gビズインフォ
<https://info.gbiz.go.jp/hojin/ichiran?hojinBango=4010401195731>

6 24 経産省、ソフトバンク主導の企業などに3800億円支援 AIロボ開発 | ロイター
<https://jp.reuters.com/markets/global-markets/7AALDZBXLJPOFNITM6ZBURZXTU-2026-06-30/>

8 11 23 33 43 66 国内大手が共同出資のAI開発企業「日本AI基盤モデル開発」、新名称「Noetra」で始動 産総研と国産マルチモーダルAI開発へ - ITmedia AI+
<https://www.itmedia.co.jp/aiplus/article/2606/30/2000000138/>

10 53 61 「AIロボット・フィジカルAIを見据えたマルチモーダル基盤モデル開発事業」を開始します (METI/経済産業省)
<https://www.meti.go.jp/press/2026/06/20260630005/20260630005.html>

13 42 46 自律稼働デバイス向けの視覚言語モデル PLaMo-VL を公開
https://www.preferred.jp/news/pr20260403?utm_source=chatgpt.com

14 54 生成AIサービスの利用に関する注意喚起等 -個人情報保護委員会-
https://www.ppc.go.jp/files/pdf/230602_alert_generative_AI_service.pdf

19 21 29 69 ソフトバンクなどAI基盤モデル開発の新会社設立か 1兆パラメーター規模モデルでフィジカルAI開発目指すと報道 - ITmedia AI+
<https://www.itmedia.co.jp/aiplus/article/2604/13/1260413084/>

31 34 CNRS-産総研ロボット工学連携研究室
<https://unit.aist.go.jp/isri/isri-jrl/jp/projects/project-foundation.html>

37 産総研：AIRoA主催「ロボット基盤モデル開発コンペティション」で産総研・ソフトバンク・三菱電機の合同チームが優勝 大規模ロボットデータの質を自動で評価する手法により、高品質なモデル構築に成功
https://www.aist.go.jp/aist_j/news/prz20260512

38 産総研：「1つの物体を見るAI」から「複数物体を見比べるAI」へ
https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2026/pr20260525/pr20260525.html

39 qai.pj.aist.go.jp
<https://qai.pj.aist.go.jp/aisafety1/results/2025/3-1-1/pdf/multimodal-aiqm-guidelines-rev1.0.0.pdf>

40 44 47 RESEARCH | SB Intuitions Corp.
<https://www.sbintuitions.co.jp/en/sarashinalab/>

41 48 NEC、「ガバメントAIで試用する国内大規模言語モデル(LLM)」に選定 (2026年3月9日): プレスリリース | NEC
https://jpn.nec.com/press/202603/20260309_03.html

49 Gemini Robotics

https://deepmind.google/models/gemini-robotics/?utm_source=chatgpt.com

50 Cosmos World Foundation Models Openly Available to ...

https://blogs.nvidia.com/blog/cosmos-world-foundation-models/?utm_source=chatgpt.com

51 $\pi 0$: Our First Generalist Policy

https://www.physicalintelligence.company/blog/pi0?utm_source=chatgpt.com

55 AIと著作権について | 文化庁

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>

56 57 meti.go.jp

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20260331_2.pdf

58 Noetra 株式会社 - 情報セキュリティ基本方針

<https://www.noetra.co.jp/security>

59 人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律（A I 法） - 科学技術・イノベーション - 内閣府

https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_act/ai_act.html

65 nedo.go.jp

<https://www.nedo.go.jp/content/100977500.pdf>